

検査の予習

乳がん検診は

年代に合わせてメニュー選び



ピンクリボンは、乳がん検診の早期受診を推進する世界的キャンペーンのシンボルです。

乳がんは日本女性にとって最も発症数が多いがんです。乳がん検診には主に超音波検査とマンモグラフィがあります。画像化のしくみや受け方が異なります。乳腺(母乳をつくる組織)の状態によって、それぞれの画像には写りにくいところがあるため、両方の検査を受けるのがベストです。しかし、一方を選ぶ場合は、30歳代までの若い世代は超音波検査を、40歳代以降の人はマンモグラフィがメインの検査メニューが適しています。

最近では受診しやすいように、女性スタッフだけで乳がん検査を行う健診機関も増えてきました。また、以前より痛みも少なく短時間で終了するようになっていきます。

早期発見なら乳がんは、100%近くの治癒が期待できます。特に発症率が高くなる40〜50歳代の方は、年に1度は受診しましょう。

Menu

視触診(10分)

医師が観察し乳房に異常がないか調べるとともに、乳房に触れてしこりがないかを確認する。

乳腺超音波検査(10分)

オススメ! 乳腺の発達している
若年世代(20歳~30歳代)

ここが
メリット!!



- ・触診で発見できない微小なしこりを発見できる。
- ・X線は使わないので妊娠中・出産後も受診できる。

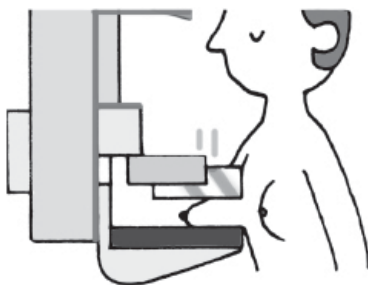
♥しくみと受け方♥

超音波の反射の違いで乳房の内部を画像化する。服を脱いで仰向けで寝て乳房にジェルを塗り、センサー(プローブ)を乳房の部分にあてて調べる。乳房を圧迫しないので痛みはまったくない。

マンモグラフィ(20分)

オススメ! 乳腺の少ない40歳代以降の人

ここが
メリット!!



- ・触診では発見できない微小なしこりや、乳がんの初期症状である石灰化(カルシウムの沈着)を早期に発見できる。
- ・大規模な調査で受診者の死亡率を減少させる効果が証明されている。

♥しくみと受け方♥

乳房を撮影装置の検査台に左右片方ずつのせ、できるだけ平らになるように圧迫して、正面と斜め方向からX線で撮影する。乳腺が白く映り異常と見分けにくいいため、乳腺が発達している若い人には向かない。

乳がん検診 費用の目安(自己負担3割の場合)

視触診+乳腺超音波+マンモグラフィのフルコース受診で5,000円程度~(検査機関により異なる)。自治体による無料検診や補助制度もあるので、市(区)町村の窓口で確認を。

予習メモ